

団体概要書

(その1)

団体名	公益財団法人 山本能楽堂	団体の種別 ※いずれかの□にチェックしてください。	<input type="checkbox"/> 公益社団法人 <input checked="" type="checkbox"/> 公益財団法人 <input type="checkbox"/> NPO法人 <input type="checkbox"/> 認定NPO法人 <input type="checkbox"/> 非営利型法人 (公益法人へ移行予定)
代表者の 役職・氏名	(ふりがな) だいひょうりじ やまもと あきひこ 代表理事 山本 旭彦		
主たる事務所の 所在地	大阪府大阪府中央区徳井町1丁目3番6号		
設立年月	1927年 11月	構成員数	16名
事業年度	6月 1日 から 5月 31日		
団体の活動 目的	能楽関係諸資料の収集、保存及び公開を行うとともに、観世流能楽の公演、伝承者の養成等を行い、能楽の振興と普及に努め、もって大阪府における文化の振興に寄与することを目的とする。その目的を達成するため次の事業を行う。(1) 能舞台及び演能道具類の収集、保存及び活用 (2) 能楽の公演と普及活動 (3) 能楽伝承者の育成のための研究会等の開催 (4) その他目的を達成するために必用な事業		
活動分野	※下表の芸術文化の中から選択して記入してください。 9. 能楽		
主な活動内容	1. 能の普及活動(「たにまち能」「とくい能」「まっちゃまちサロン」など) 2. 上方伝統芸能(能、文楽、歌舞伎、上方舞、落語、講談、浪曲等)の継承・情報発信 3. 次代を担う子ども達への能楽の普及と継承(文化庁の委託事業、自主公演、大阪府下・全国) 4. 公共空間での能の普及公演ならびにアウトリーチ活動 5. 海外での能の普及活動および公演による国際相互理解の推進と国際親善 6. 能ならびに伝統芸能のアプリ開発による世界に向けた日本の伝統芸能の発信 7. 国登録有形文化財の能楽堂の保全・管理・公開・活用 8. 能楽伝承者の育成		
これまでの主 な活動実績	昭和2年山本能楽堂創設 昭和20年 戦火にあい焼失 昭和25年 山本能楽堂再建 平成18年 財団法人山本能楽会の認可を受ける 平成18年 国登録文化財の登録を受ける 平成23年より文化庁・重要建造物等公開活用事業の全国初のモデル事業として改修工事を実施。 G20大阪サミットの際にはイギリスのメイ元首相が訪れた。 全国の約8万人の子供たちに能の魅力伝え、小学校「6年社会上」の教科書の表紙にもなる。 2016年には大阪城とブルターニュ大公城(フランス/ナント市)との調印式、2022年には大阪市とミラノ市の姉妹都市提携40周年記念にも海外公演を実施し、大阪市との国際相互理解を推進し、国際親善に貢献。世界最大規模のシビウ国際演劇祭にも2016年から毎年招へいを受けるなど、10年間に50公演を海外で実施。大阪文化賞、外務大臣表彰、国際交流基金地球市民賞、ティファニー財団日本文化大賞、関西西気文化圏賞特別賞、グッドデザイン賞2017、2020等受賞		
ホームページ	有(URL http://noh-theater.com) / 無		
機関紙	有(機関紙名) / 無		

「活動分野」大阪市芸術文化振興条例第2条にて定義する芸術文化

- 1 音楽 2 演劇 3 舞踊 4 美術 5 写真 6 映像 7 文学 8 文楽 9 能楽 10 歌舞伎
11 茶道 12 華道 13 書道 14 その他の芸術文化

寄附者へのPR等

(その2)

<p>貴団体における現在の課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1, 能をはじめとする伝統芸能の鑑賞者数および嗜む人数の減少。 2, 伝統芸能の継承者の育成ならびに育成者の増加。 3, 能楽ならびに伝統芸能のファン層、応援者層の拡大。 4, 国登録有形文化財の能楽堂の次代に向けた保全と継承。 5, 活動内容の一般への幅広い周知。 6, 内外からの観光客に日本を代表する伝統芸能である能の魅力を伝える事。
<p>貴団体の将来展望 (何をめざしているのか、支援を受けて取り組みたいこと等)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1, 太閤秀吉が愛した能を、そのお膝元である武家屋敷地区に残る能楽堂で、次代へと継承し、大阪のまちの魅力を伝えていきたい。 2, ユネスコ世界無形遺産である能楽、文楽、歌舞伎をはじめ、大阪に伝わる多彩な伝統芸能を普及・啓発し、「芸能の都」としての大阪の魅力を発信し、大阪に伝わるこの貴重な文化遺産を継承していきたい。 3, 能楽堂は一般の人々には「敷居が高い」と思われがちであるが、「開かれた能楽堂」としてより多くの方にご利用いただき、様々な人の交流が生まれ、「ここから何か生まれ、発信される＝創造の場」として活用していきたい。 4, 山本能楽堂が船場の旦那衆の社交場として創設された歴史をふまえ、多くの人に活用していただくことで、新たな可能性を見だし、「現代の社交場」として甦らせたい。 5, 伝統的な日本の宮大工の手による建物を有効活用し、多くの人に日本のよさを感じる事ができる「おもてなし空間」としての役割を担いたい。 6, 新たに設置した資料室・ライブラリーに大阪の文化・伝統芸能に関する資料を収集・公開し、大阪の文化の豊かさを次代に伝えていきたい。□
<p>市民等寄附者に対するPR</p>	<p>皆さま方のお力添えのお陰様で、未曾有のコロナ禍においても、「文化の灯を消さない」よう何とか活動を続けられていることに、心より感謝申し上げます。</p> <p>2022年11月、大阪市とミラノ市の姉妹都市提携40周年記念能楽公演を行わせて頂き、両都市間の国際親善につとめさせて頂きました。また、今回の公演を機に、国立ミラノ大学に能楽を学ぶ新たなコースが新設され、大きな成果をあげることができました。これも一重に皆様方のお力添えの賜物と厚く御礼申し上げます。コロナ禍やウクライナ侵攻等により、世界が不安定な時代を迎えましたが、今こそ文化による国際相互理解を深めることが世界平和につながると信じております。微力ながら頑張っておりますので、ご支援を賜ります様何卒よろしくお願い申し上げます。</p>